

共産党は平和の座標軸

参院選で改憲、大軍拡が争点になっています。立憲主義を守れと野党共闘を応援してきた元文部科学事務次官の前川喜平さんに聞きました。

(三浦誠)



元文部科学事務次官
前川 喜平さん

9条改憲 問われる参院選

憲法改定をめぐって参院

選は正念場です。自民党などは9条に自衛隊を明記するとしています。自衛隊の存在を認めるために明記するかのようになっていますが、これは詐欺的手法です。

自民党の憲法改正草案は、「9条の2」を創設し「自衛権の発動を妨げるものではない」と加えています。これにより戦力不保持を定めた9条を脅かすにできます。各目が「自衛」であれば世界中どこへでも行って、どんな戦争でもでき

るようになります。「自衛」という各目はいくらでも付けられます。ロシアのプーチン大統領だってウクライナ侵略を「自衛のためだ」と始めたわけですから。

夫委員長が、ASEAN (東南アジア諸国連合)と手を携え、東アジアの平和をつくらうと提案しているのは非常に正しいと思います。

「現実が力の世界だから力に対応するしかない」という考えが横行しています。その中で多くの政党が「軍備強化」を主張しないと言ふれず、防衛費を2倍にするといっています。2倍というのは文部科学省の予算をゼロにするのと同じです。文科省と防衛省の予算はほぼ同額ですから。

戦争への不安をなくす方法は軍備拡大ではありません。国連を強化し、国連を中心に平和を維持することです。日本共産党の志位和子。一つの座標軸みたいなものとして共産党がいることが非常に大事です。共産党を含めた野党共闘をつくり直して改憲を阻止してほしい。